

## シラバスに載っていない参考図書 2023 年度

宮城大学学術情報センター春の恒例企画となりつつある「シラバスに載っていない参考図書」。講義や演習の参考図書には指定されることはない、しかし、学生に読んでほしい本をさまざまな方に紹介してもらうこの企画、今回は一般社団法人 Granny Rideto（グラニー・リデト）代表理事で宮城大学の卒業生でもある桃生和成さんと、ポッドキャスト番組「MyULP」のナビゲーター・小川直人（本学特任准教授／せんだいメディアテーク学芸員）が選ぶ 50 冊。

\*桃生さんセレクションの何冊かは、「MyULP」で紹介しています。ぜひお聞きください。

\*\*気になる本は図書館で探してみてください。ただし、4 月下旬時点では所蔵していない本も一部あります。

### 桃生和成（ものう・かずしげ）

一般社団法人 Granny Rideto 代表理事。1982 年仙台市生まれ、いわき市育ち。宮城大学大学院事業構想学科空間デザイン領域博士前期課程修了。2008 年、NPO 法人せんだい・みやぎ NPO センター入職。多賀城市市民活動サポートセンター長を務めたのち、2016 年退職。利府町まち・ひと・しごと創造ステーション tsumiki ディレクター（2016 年-）、シェア型複合施設 THE6 ディレクター（2016 年-）、東北文化学園大学非常勤講師（2018 年-）。『復興から学ぶ市民参加型のまちづくりー中間支援とネットワーキングー』（創成社／2018 年）共著。

### 小川直人（おがわ・なおと）

宮城大学基盤教育群特任准教授（学術情報センター）／せんだいメディアテーク学芸員。1975 年仙台市生まれ。東北大学大学院教育学研究科博士前期課程修了。学術情報センター（大学図書館）の企画運営に携わり、「六限の図書館」「MYU Cinema Days」などを実施。2022 年からは Podcast 番組「MyULP」を始動。講義では「音響映像デザイン」「現代メディアカルチャー論」を担当。せんだいメディアテークでは、映像文化の推進、地域文化のアーカイブといった領域で仕事をしている。また、個人でも企画や出版物の編集を手がける。

## 桃生和成セレクション

何をやるにも大義名分ばかりが求められるが、やりたいことがあればやりたいようにやっていいし、やりたいことが見つからなければ片っ端からやってみたらいい。ここに挙げた本たちがそっと背中を押してくれる。

全部読まなくても良い。パラパラとめくったページの一説からはじまることもある。

(凡例)

書名／編著者 | 選者コメント

圏外編集者／都築響一 | プロじゃないからおもしろい。

図解 使える失敗学／畑村洋太郎 | 失敗がダサいわげじゃない。失敗しないのがダサい。

絶望名人カフカの人生論／フランツ・カフカ | 絶望しきった先に見えるもの。

大人問題／五味太郎 | 子ども以上に大人は厄介者。

日本語の作文技術（新装版）／本田勝一 | 文章を書く指針となる一冊。

センスは知識からはじまる／水野学 | 今からでも遅くないセンスの磨き方。

へろへろ／鹿子裕文 | 常識破りの介護施設「よりあい」。福祉の概念が崩れる。

フィールドワーク：書を持って街へ出よう（増補版）／佐藤郁哉 | フィールドワークの講義を受ける前の予習として。

みつばち鈴木先生—ローカルデザインと人のつながり／原研哉（編） | 事例満載のローカルデザインの教科書。

豊かな浜の暮らしを未来へつなぐ—蛤浜再生プロジェクト／亀山貴一 | 一度は訪れたい2世帯しかいない集落にあるカフェ。

Fashion : the ultimate book of costume and style（世界服飾大図鑑）／深井晃子（監修） | 時代の叡智の集合体。それが服。

踊ってはいけない国、日本／磯部涼 | クラブから日本の構造を見直す。

2020年6月30日にまたここで会おう：瀧本哲史伝説の東大講義／瀧本哲史 | 最重要の学問は「言葉」である。（本文より）

ラクガキ・マスター：描くことが楽しくなる絵のキホン／寄藤文平 | 絵を描くのに苦手意識のある人はラクガキからはじめよう。

考えの整頓／佐藤雅彦 | 何気ない日常も見え方が変わる。

建築家 安藤忠雄／安藤忠雄 | ボクサーから建築家に転身した。

たのしいムーミン一家／トーベ・ヤンソン | モーアはムーミンから学ぼう。

すてきなあなたに 2／大橋鎮子 | 「暮らしの手帖」という雑誌、知っていますか？

私の幸福論／福田恆存 | いくぶん、気に入らぬことがあっても、最後まで辛抱して読んでいただきたい。(本文より)

市民の日本語／加藤哲夫 | 市民社会について学ぶ入門書。

佐久間宣行のずるい仕事術／佐久間宣行 | ずる賢いTVプロデューサーのお話。もっとずるくなろう。

継続するコツ／坂口恭平 | 飽きっぽい方、必読。

Mobitecture 動く住まい図鑑／レベッカ・ローク | じっとしてられない人の。

ポケットに名言を／寺山修司 | たった一言に救われる人生もある。

ひきこもれ／吉本隆明 | こもりまくった先に何かが見えるかも。

## 小川セレクション

2023 年度の最初の企画ということで、あらためて自己紹介、そして、学術情報センターが主催する企画の紹介、さらには、学生らしく考えるきっかけとなりそうな本。しかし、“学生らしく”ってなんでしょう？

さよなら未来：エディターズ・クロニクル 2010-2017／若林恵 | 雑誌「WIRED」の元編集長、現在は黒鳥社の代表。「六限の図書館」のゲスト。

「ケアをひらく」をひもとく (DVD)／宮城大学総合情報センター | 「ケアをひらく」の編集者・白石正明さんが「六限の図書館」で話した記録。

介護するからだ／細馬宏通 | シリーズ「ケアをひらく」より。細馬さんも「六限の図書館」に登場。

ソロニューの森／田村尚子 | これもシリーズ「ケアをひらく」より。なんと写真集。

ぶたにく／大西暢夫 | 図書館での写真展というめずらしい試み。大西さんも「六限の図書館」に登場。

文字を作る仕事／鳥海修 | 活版印刷機を所蔵する本学らしく。鳥海さんも「六限の図書館」に登場。

山形映画祭を味わう：ドキュメンタリーが激突する街／倉田剛 | 日本が世界に誇る映画祭は隣県に。ちなみに図書館では時々上映会もします。

映画への不実なる誘い：国籍・演出・歴史／蓮實重彦 | せんだいメディアテーク (smt) での講演録。小川が初期に手がけた仕事。

カミングアウト/クローゼット：多様な性の当事者たちによる生の声の記録／レインボーアーカイブ東北 | smt の市民協働企画。

せんだいメディアテークコンセプトブック（増補新版）／せんだいメディアテーク・プロジェクトチーム | 2001 年に開館した smt の本、増補版。

月刊佐藤純子／佐藤純子 | 仙台在住のイラストレーター・佐藤純子氏の初単行本。企画・編集は小川（趣味で）。

つくる〈公共〉 50 のコンセプト／せんだいメディアテーク編 | smt が開館 20 年を経て世に問う、次のコンセプトブック。

3.11 キラクのキラク：市民が撮った 3.11 大震災記憶の記録／NPO 法人 20 世紀アーカイブ仙台 | 市民の手による記録の価値。

わたしは思い出す／AHA | 東日本大震災と生活史。3.11 メモリアル交流館での企画から。

アフロ・ディズニー／菊地成孔・大谷能生 | 「現代メディアカルチャー論」の元ネタのひとつ（なのでシラバスに挙げていない）。

うたうおばけ／くどうれいん | 著者は宮城大学卒。大学生活のことも出てくる。

砂漠／伊坂幸太郎 | 仙台在住の小説家と言えば伊坂幸太郎。氏の大学生活をモチーフにした小説。

コンプレックス文化論／武田砂鉄 | 誰しもあるであろうコンプレックス。しかし……。

断片的なものの社会学／岸政彦 | 「生活史」はブームでもあり、今日の教養として。

「これから何が起こるのか」を知るための教養 SF 超入門／冬木糸一 | 今日、SF は映画や小説のジャンルではなく教養（断言）。

……の反対は？／リチャード・ウィルバー | 子どもむけの絵本。しかし「……の反対は？」と考えてみることは学生こそ大事。

猫に学ぶ／ジョン・グレイ | 学問するとは、たとえ猫にでも学ぶことはできる。

映画とは何か／加藤幹郎 | 大学時代に自分なりの「○○とは何か」を考えてみてほしい。

文化人類学の思考法／松村圭一郎ほか | いま文化人類学はある種の教養。

世界と僕のあいだに／タナハシ・コーツ | 映画『イコライザー2』で主人公が読んでいた本。そういうところから読書を始めても良い。